

かりに文野のみけに柵ふもや鷹のやとと制す事

文野ハおもひゆるるるぬきハ架よりくて用ひまはるは
又架垂ともゆる架より川環二つはつもの也此よりを
それと云え又鷹書ハ文徳天皇の御宇文野の御狩ハ御鷹を
つあきくぬきとてきくものぬき今も三本のくくも他
此故事ともく文野ハ三柵といひく君侯ハの給ひき
古註ハ春ハ梅夏ハ柵秋ハ檜冬ハ杉とくく古写本塙本
ともり衣と人ともみのよくぬきとももささる三字
まの字孔あやまり来べく

かりくくくぬきぬきのきく尾をくくやうもくく人